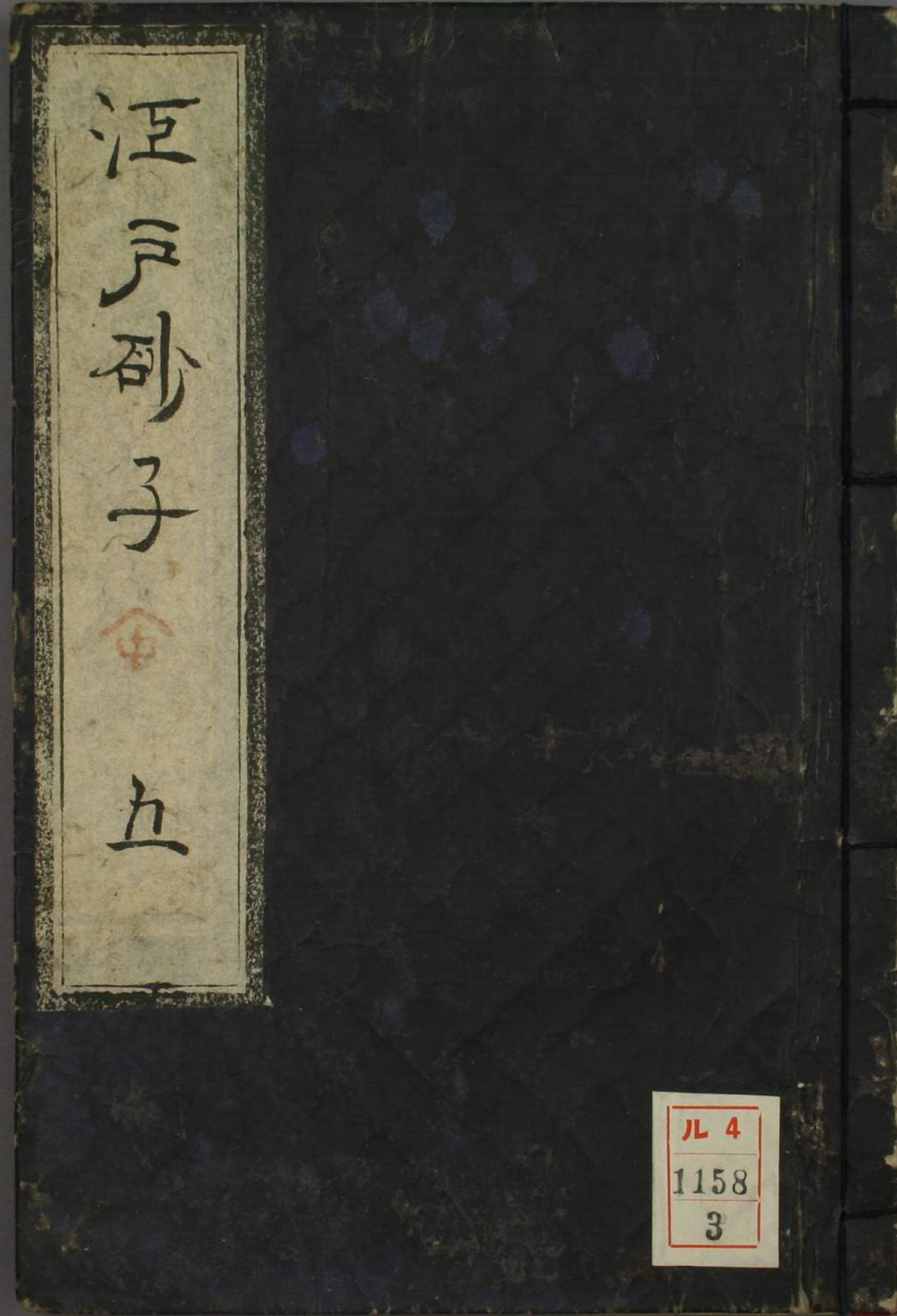


Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black  
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



江戸砂子  
金  
五

ル 4  
1158  
3





門 儿 4  
1158  
3

江戸砂子温故名跡誌卷之五

沾凉纂編

五 豊嶋郡麻布領  
西窪  
愛宕下

六 同郡  
麻布  
平尾

七 荏原郡呂領  
二本掇  
高輪

八 同郡  
呂川  
鈴森  
大井  
池上  
馬込領

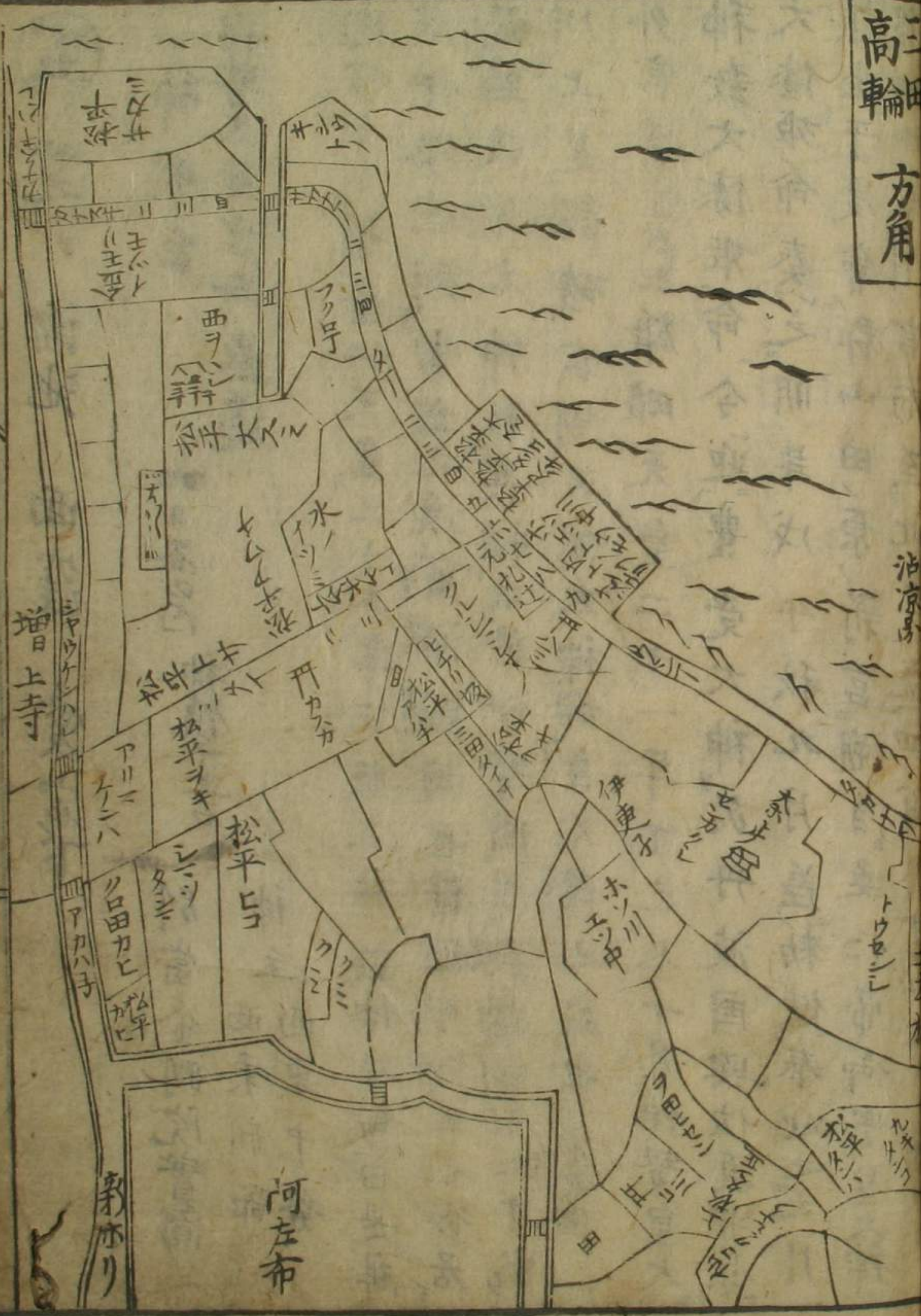
九 同呂川領  
白金  
目黒  
世苗谷領  
碑文谷  
矢口



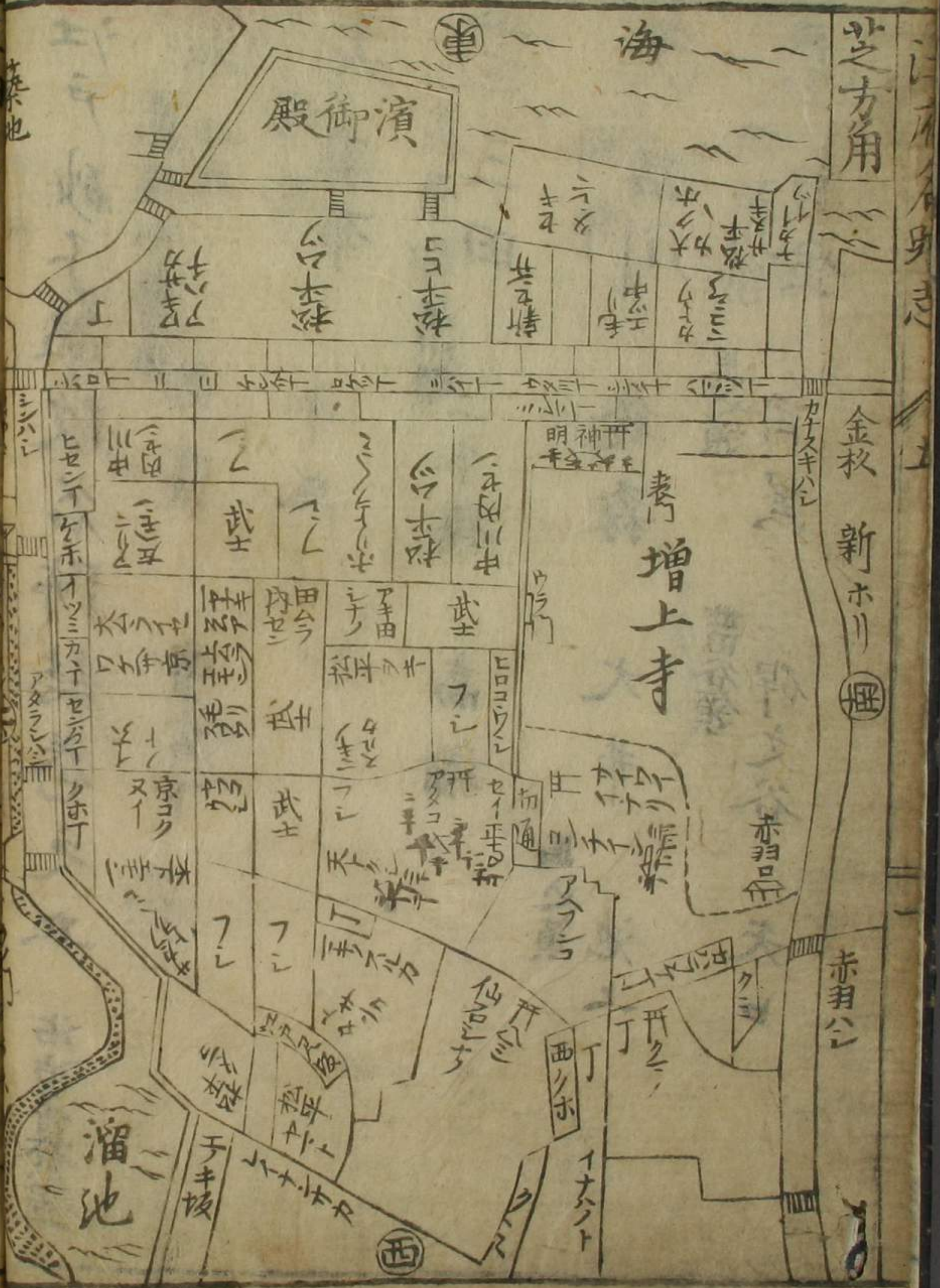
Handwritten notes in cursive script (sōsho) covering the right page, including the number '23' and various illegible characters.



江戸府名簿



高輪 方角



芝方角

海

演御殿

増上寺

金板新ホリ

赤羽

西



十五 芝ノ溜池 西窪 愛宕下

神明宮

伊勢太神宮御影遷

北日谷の内

神領十若

別當金剛院實圓

神主 西東刑部 西東中務

内宮日本紀 垂仁天皇二十五年天照太神誨倭姫命曰是神

風伊勢國則常世之浪重浪歸國也傍國可憐國也欲居

是國故隨太神教其祠立於伊勢國因興齋宮千五十鈞

川上是謂磯宮則天照太神始自天降之處也前後略

外宮神皇正統記 雄略天皇二十一年丁巳冬十月伊勢皇大

神教大倭姫命令迎豐受大神於丹波國與佐真井原

大倭姫命奏之明年戊午秋九月差勅使奉迎之九月

鎮坐于度會郡山田原新宮遡自垂仁帝御宇皇大神

當社飯倉神明宮人皇六十六代一條院河守實仁二年

九月十六日にあつて即神幣と大牙一枚此世に流

人氏あつてむすむ七歳とるりの児女ありていづくも此の是

伊勢太宮乃神しとて宣ありしとて信をなすといふ

そのころ而もせを經つて後多羽院建久四年源頼朝天下野國

那須野の桑向の河杉野ありて宝釵をかきぬ一千三百餘貫乃

神田を寄附たりむの神職形をなす神主也

いづらんか百世代後土部門院明應二年伊勢新九郎氏茂

相列小田原の城主大森実光を亡一因東ノ威をぬ

るの御為社の神位をせぬとてなり神教大倭姫命

之とて修補せしめ候あり年月をあるて後正親所院

天正年中に徳社法高の終るを継ぎしとて甲斐信致

神代伊奇附かきしとて後實永十一年即信致

より即修造をせしめしとて後實永十一年即信致











衣織女撰中物乎神女乞之漁父不與神女欲上天而無羽衣於是遂與漢父爲夫婦蓋不得已也其後一旦取羽衣乘雲而去漁人亦登仙矣  
守邊神なり爲氏子七甲半未滿の時痘瘡せざり一生とのりてくひなりしなり他の氏子も立病しあはれ氏子とありて早賤と多し爲院より痘瘡すけのちり  
△麻呂大明神ハ寛永年中一社浪子漂泊して来りて以後そりあがり又後十一面觀世音の傳おはすなりなり  
一社し十一面は是處傳の本也なりとありて常列奉持此友社ハ本是其外七所の產土神し祭礼三月十五日友社同日

○愛宕 溜池

別當園福教寺

○愛宕山

瑞林集

江戸愛宕山之草根者台願ニ依テ也本地佛者乃殿下恭敬御持尊行基菩薩所雕刻其来由を撰じしひ行基天平十年江列紫香池より化せし日勝軍此菴の小像を造り安陸内親王に授けり是の邑中に室祠を建遣し安室と今宮村と名くはれり是の使かり天正十年の夏明智信長を殺す時台旗和泉公塚と築し此の大木あり宇治を治り江列紫香池より入るなり多羅尾四所を爲す室にやうりし時此像を劫中後尾村の傍神像より春音より元下野國の人なり此像を供せしと東いれりしなり後法軍より春音將軍は法を傳せしより奥列沖進祭の時と名き法ありし唐長年矣外の夏の頃の春音ののりし神祠を宮構し勝軍の像をやとせんといひりしなり也唐子のより因永のはし勝軍の法を傳しりしなり此の地なるに法ありと云ふは奥列在田の村氏内六郎といふなりと昇石河守宮を爲すに今

江戸名勝志



奉新して地を禱し基を開て假殿を經始し七九府より  
切を發し十四日以内よりくも熊の窟を心くくふに六院  
を稱し春暮の坊に遍照院と号す今の寺福寺是りのなり  
その竹五院今の金剛院 善賢院 仁徳院 華嚴院 廣照院  
等なり

神證字の春音後春香と改下野國人姓の塩谷母皆川氏  
内藤六郎後と云伏し成長定と云罪の中ありて迹を禱す  
慶長十五年庚戌 本社幣殿并殿閣門 悉く押建となり  
元和三年丁巳 寺務部 王子村より而ふの地を山頂に充  
け五年 釣命ありて神證より退居を許さる金剛院より  
神免すいしくとくもく 園山をふ下妻の俊賀和尚と賜ふ  
俊賀和尚字圓精 下野國人姓ハ姓路氏宇都宮公三高僧  
の後裔し下妻の圓福寺に住す

圓福教寺 智積院末 當山別當職 真言宗四寺の  
地至稻荷社 荒神祠 天王祠 かのく慶長十五年の造り

石壇六十八階 是を男婦と云 石のふに女婦と云あり  
林下本世堂あり 當のありの流をさく川よりてそ  
ふより東のくくく 芝浦の眺を遠くハ房総のふの  
く海との風景なりありあり

○小身小治 田村のふのふ  
○藪小治 ありのふや三所のふの  
ふのふに小藪ありしし 砂鷹をとしてい藪とてありし  
ひし いたきりり藪なりし 今ハワのふしてありし  
別當 俊賢院 神主 山田之助

○馬持稻荷社 ありのふ  
朱雀院法堂 天慶年中 飯原秀卿 経列 榮白 村武列  
ふのふく 稻荷 一ハ形なりしに白狐の羽の矢を鳴くふて  
秀卿いありし此矢をとりて 東夷をまつありしはと  
道とせんふありて 夜白狐つてふふ 亦鳥のひくく 亦鳥の  
ふのふよりし此社地をまつしし 松田の御よりあり

式人の云はぬ教の所法を  
とれし年毎 献上あり  
と云りたりありし  
と云りたりありし



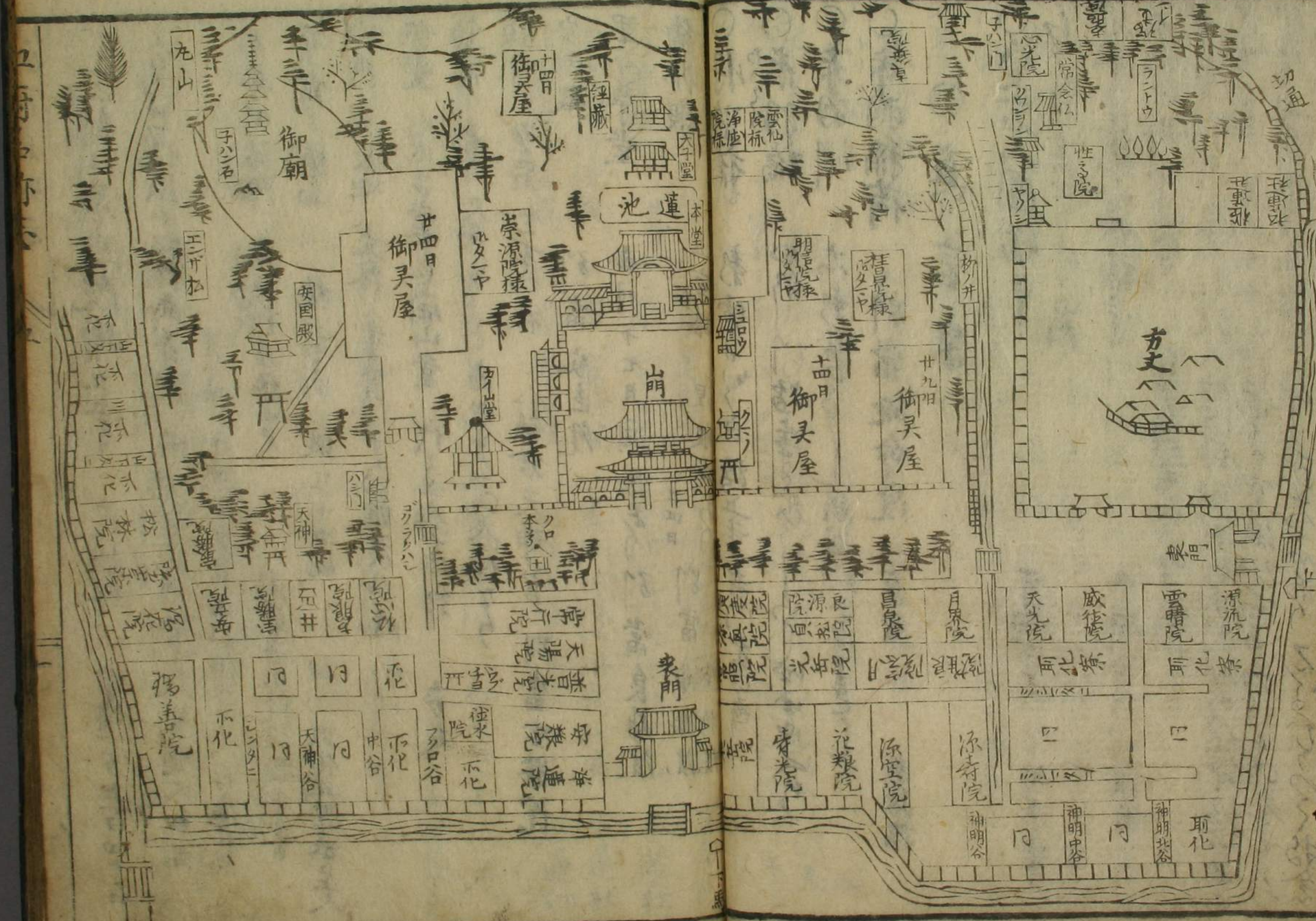








三縁山



波涼園



芝檀林 寺領一万五千石

人皇百一代後小松院濟尊刹 用山大蓮社西譽上人聖聰大和尚

房十五 中興用基貞蓮社源譽上人存應和尚

本尊阿弥陀 惠心の代座傍四尺 用東浄土法林惣本寺

本堂 東向 棟二十間 縦三十五間 現 大僧正學譽上人

山門 釈迦 文殊 普賢 十六羅漢八像

經堂 太子堂 用山堂 代り上人の御影 二力士

釣鐘 存才尺余あり高從才の大鐘なり

鎮守 慈野三下の社 △飯倉天神宮 別當宝勝院

安国殿 別當安之院

果本尊堂 毎月十七日用帳あり 別當良雄院

御佛殿 廿四日 別當 惠眼院

御佛殿 十四日 別當 真乘院 △清陽院標沙佛殿 別當 通玄院

御佛殿 廿九日 別當 智連院 △淨法院標沙佛殿 別當 学蓮社

崇源院標沙佛殿 別當 寂勝院 △靈仙院標沙佛殿 別當 松蓮社

挂昌院標沙佛殿 別當 佛心院 △明信院標沙佛殿 別當 徳蓮社

△松木橋 山門のたのろ 鷹島寺門 修多路の示

△連池 本堂のくろ 柳乃井 本堂の小手印塔の示

△糸橋 廿四日佛殿の示 △曼陀羅石 寺廟示 後々修し

△糸座松 乙下谷の色 圓山 乙下谷の西

△産産並輪荷 親智院 △大消地藏 花岳院

△取化寮 三徳谷 日中谷 神明谷 日中谷 日北谷 袋谷

△清常念佛吾石別當 惠照院 天神谷 南 中谷 南 新谷 山下谷 日中谷 日西谷



△二文字席 五十僧 此内学院二篇より十二僧、一山文庫の  
月番役執行の少座十二僧を月行夏席とし、  
横木間席 三十八僧 椽輪席 六十二僧  
○九大衆 三千余より成り、靈山會上の少僧とし

△塔頭 三十坊 各御朱印あり

- |                           |              |     |     |     |
|---------------------------|--------------|-----|-----|-----|
| 源流院                       | 威徳院          | 雲暗院 | 天廣院 | 月界院 |
| 昌象院                       | 貞松院          | 良源院 | 光岳院 | 月窓院 |
| 良雄院                       | 源法院          | 源有院 | 夜陽院 | 知法院 |
| 廣度院                       | 常照院          | 源真院 | 夜岳院 | 淨運院 |
| 安親院                       | 天陽院          | 親智院 | 常妙院 | 法水院 |
| 瑞象院                       | 智象院          | 清光院 | 龍寔院 | 林松院 |
| 心光院                       | 常念佛          | 千付堂 | 觀音堂 | 某降堂 |
| 元源七年才廿二世念蓮社貞譽上人了也自然和尚大僧正任 | テヨリ相談く代々大僧正也 |     |     |     |

開山酉譽上人、下総國千葉人、父の千葉陸奥守平貞胤母、  
新田氏、雅名佐千代九と云ふ九歳より、千葉寺に出家、  
其言字々たる至徳二年了譽上人、傳通院開山の弟あり、威徳院  
門下、後衣列を爲す、御子胎地を廣く、一宇建す、  
其處今、増上寺なり、永享十二年申七月十八日寂、嘗七十五  
才二世、明蓮社、贈譽上人、酉仰和尚と号す、  
三世、音譽上人、江列甲賀の人、望月外記乃子、室徳元年三月  
寺主、かる太田通灌と交り、甚る、一月衆以、  
看看天地清濁色 五妙境界淨刹臺  
三 惡火坑阿鼻底 一機不轉古今夏  
大宅のいさゝか、いん小車のたり、あゝ、  
言かい、く、空をま、  
高山のい、  
今、  
江戸名所志







○光明寺和合院天德寺 知恩院末 寺領幸右 紫衣也 西條

人皇百六代後奈良院天文二年并創 知恩院宿寺 始八号天知庵

開山蓮社稱念上人中興用基弟十二世是譽上人

是譽智法上人 一以大夫の御家系を祖とする寺院

榮壽院	指取院	不刺院	光長院	淨桂院
寶智院	常立院	教文院	榮雨院	智相院
智難院	智智院	和合院	長元院	龍興院
長谷院	淨品院			

寺中

○西谷山壽而院大娘寺 知恩末 寺領五十石 旧下

人皇百六代後陽成院慶長年中并創

開山儀譽上人 本寺 雲慶上人

○田中山相福院西應寺 増上末 寺領十石 本寺

人皇九十九代後芝巖院應安元年并創

開山明賢上人 中興才十六世存尚和尚 鎮守 正一位 稻荷社

本寺河海院 貞心上人 台駕高きより合掌し 開基の末由に尋ありて

天正年中 沙奇附すしとて存尚和尚の時 釣合はりて一夏九旬の

平法幢をとりて一而修人の可化をいし宗風の實源をいし

この為寺密毎の開基よりいし三百余歳に及ぶ境内あり

△朝日山松 △常の松 △火除の松 本寺境内あり

塔頭 定林院 善受院 正定院 演暢山法言寺 知恩末 本寺 影向山西信寺 増上末 本寺

○瑠璃山宗光寺 旧 旧下 ○十劫山成覚寺 知恩末 田町

○紫雲山源光寺 旧 旧下 ○海見山智福寺 旧 旧下



○ 禪宗

○ 一力羊山普松寺

曹洞宗に属する寺也

ありて用

用山雲崗後法大和尚

之の頂普松何東雲崗に在るを始依一建立あり一其の心より寺是より雀山世に具振なり天正の法世にあり

塔院

清尾院

老壽院

信成院

吟定院

大日院

○ 勝林の金地院

五山僧録

寺願七百乙

切通

用山大業和尚

大覚禪師流

元來京却南禪寺、金地院の宿寺なり  
南寺塔院元増上寺の地よりし之の宿寺の地なり

○ 金竜山福徳光寺

曹榮

西ノホ

○ 真珠山尖室寺

曹榮寺本

キレ下

○ 東雲山普竜寺

日末

切通

○ 一向宗

○ 淨竜山澄泉寺

高田流

瀧池

用山

塔院

常公寺

正福寺

林松寺

○ 松橋の安楽寺

栗

芝金松

○ 梅山光明寺

西末

西ノホ

寺中 淨宗寺

松初椿水仙献上あり

○ 南江山経光寺

日

日下

○ 長徳寺

日

中ノ之

○ 安樂寺

日

日中色

○ 勸勝寺

東末

芝

○ 光香寺

東末

西ノホ

○ 光明の法泉寺

日

日下

○ 板取宮光寺

日

日下

○ 向陽寺

日

金松

○ 常智寺

日

金松

○ 存明寺

日

日下

○ 法会寺

日

日下

○ 法会寺

日

日下

○ 法花宗

○ 法聚山身殊寺

身集

金松

○ 妙光山浄寺

本寺末

飯ヶ







○福荷社 谷所の法寺 別當岸照林昌寺 三空院流

高社田也八海 此所の法寺 神木の枝今にあり 三田 切里三木

○観音堂 日下 禪宗 此の寺の永昌寺 土室坂 寺本

○名井坂 長坂の寺 相生坂 寺本 土室坂 寺本

○長坂 寺本 根津引尚乃坊 寺本 石階あり

○福荷社 長坂の寺 根津引尚乃坊 寺本 石階あり

○雌狸也 長坂の寺 根津引尚乃坊 寺本 石階あり

○日南窪 長坂の赤色村 渡邊寺 寺本

○六本木 びくく海のお 寺本

○様田 一名百姓所 寺本 寺本 びくく海のお 寺本

○霞の福荷 様田 天台 別當霞の観音院 上野末

ひくく海のお 寺本 様田 寺本 びくく海のお 寺本

○朝日観音 日下 寺本 一向山三光院専称寺 和泉末

用之沈美信廓大 三光院清心比丘尼の用基 和泉末

本寺の寺主 九の叢より出現 寺本 三光院比丘尼 寺本

作し 寺主 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本

尾の寺 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本

○子安宗師 日下 真言 福荷の正光院 高野の正智院末

寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本

○一本松 一名冠の松 寺本 寺本

大木の松より連をわけて 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本

寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本

寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本

寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本

寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本

寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本

寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本

寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本

寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本

寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本

寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本

寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本

寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本 寺本



あつきのまきりの松と云り△又小野の望みの今川松と云流もあ

○栗飯沢 日下 かの栗飯をまのまのまののり

○氷川社 麻布 真言 真福菜 別当徳樂寺

あるの産物也 茶元九月十七日

○浅懸松 麻布のありし古き松なり

西の人の云天真寺に古ありし松なり

身ありし古ありし松なり

○仏堂坂 松平浅奥のありし松なり

○鹿島石 若狭寺の下の松なり

毛村日向のありし松なり

○日向橋 新堀のありし松なり

○御殿前地 麻布のありし松なり

○平尾 町人のありし松なり

○輪荷社 日下 千歳寺の松

建物の紅葉あり根あり

一してまの松の枝あり

の松あり

○一向宗 佛閣

○麻布山善福寺 西流 寺元十石 雑色所

用ふる海上人 親書上人のありし

ある海泡 恵心の代

高き性古の天台ありて

乃ち高かりしと親書上人

に到着あり津長法師の

なりて一向宗の行者なり

真宗の及傳ありし

江戸名跡志







○西福寺 日未 明 ○美堂正安寺 日未 日

○淨古寺 日未 日 ○法粮寺 日未 中野

○西支寺 西未 谷所 ○雲岳正光照寺 日未 長坂

○廣新寺 日未 長坂 ○天台宗 佛圖

○七佛藥師 醫王山東福寺 上野未 所々之の

為寺七佛や一の傳教大師の化その中の一強なり存心才

二世慈尊大師佛は以通のよ女園東へ今より所々を以

法中ををちりて今より所々を以て左田乃灌深く信

城中のあり先かちりて今より所々を以て左田乃灌深く信

宗源院様所建あり東敷ののりて廣由路を以て今より所々を以

又自寛元年より所々を以て今より所々を以て今より所々を以

○法隆山千手寺 山室未 今 ○長安寺 関山舊門和南

○淨土宗 増末 今 ○尺土崇嚴寺 知恩未 今

○光明正廣寺 日未 日 ○信樂山教雲寺 日未 日

○遍照山光心寺 日未 日 ○小源山法為寺 日未 今

○長廣山教善寺 日未 日 ○西島称念寺 日未 新所

○源真正信寺 日未 日 ○清涼山任心院 日未 新所

○松宮山孝心寺 日未 齋 ○清性山善學寺 増末 今

○光明正遍照寺 教善未 日 ○南山誠蓮社證言支

○禪宗

○日東山曹溪寺 妙心未 今 ○仙壇山春桃院 日未 今

寺中 慈眼菴 碧芦軒 寺中 自適菴

○娘沈山宗泉寺 日未 日 ○童廣山四沢寺 久末未 日



- 光林寺 妙栄 わし ○法臺山天泉寺 甲列 大泉寺末 わし
- 昌永之天雲寺 音榮 日 ○法忍寺

○法花宗

- 高梅之法典寺 小湊末 日 ○常住山長羅寺 身榮末 日
- 清徳寺 日末 日 ○松葉之妙經寺 日末 日
- 日尊之妙經寺 日末 日 ○明尺之妙經寺 本盛寺末 日
- 日通之妙善寺 日末 日 ○法之妙善寺 本土寺末 日
- 本樹之長壽寺 日末 日 ○今井之天隆寺 スルカ 光長寺末 日
- 廣葉之法雲寺 日末 日

十七 三田 二本樓 高輪

○窪三田八幡宮 窪三田 田町八幡の指  
 田町八幡の旧地、小祠あり、網の石塔とて、小祠の中、に相殿のあり、しりてあり、昔きこむ、蓮の形ありてあり、年月は、しりて、時代は、しりて、至る、古風なり、もの年月、しりて、しりて

○三田八幡宮 田町 別當眺海山法量院

正保年中、上高、下高、とて、神祇、い、後、邊、の、網、と、傳、は、れ、し、り、て、田町九所、外、十二、所の、法、と、祭、は、八、月、十、音、隔、年、

風土記 荏原郡 御田郷 或箕多

菟田八幡 圭田五十八東三字田  
 所祭應神天皇武内宿禰荒木田襲津彦等也  
 和同二年己酉八月十五日始行神祀 高江の事、しりて、しりて



前太平記 三田の臺は六孫王經基東夷征伐の討出張の地也なり  
後也綱の島下の生もたなりと云り綱生山當光寺と云り一向宗の  
寺也窪之田にあり里流と云地也綱の出生の地と云り又經の祖又  
後色土太孫守と任と云り綱の父は  
亮しとの源ありと云り出生と云り

著聞集 綱 嵯峨源氏武藏守佐孫箕田宛子号源次  
別當源敦為為兼子稱渡邊氏

○綱産湯の水 窪之田保科家の中と云りあり

○綱 糸引坂 是亦 有る家の島の飯を云

○綱 約紫松 松平屋敷中庭の松ありと云

○綱 塚 三田切運寺の境内にあり

○源又松 保科肥後守友下中と云りありと申せり  
の田邊にありと云り古書にありとの後あると云り

○綱生山當光寺 西末 寺中教祖也 窪三田

高木綱の出生の地なりと云り

○小山神明 飯倉神明の四地と云りあり 是亦

○四国町 三田町の北にありと云り

○春日神社 三田 別當三笠山神宮寺

和列 三笠山神社 春日四所大明神者第一殿武雷神第二

殿齋主命第三殿天津兒屋根命第四殿姫大神也

少社一人守六十二代村上帝天神年中武藏の由る友正房御

任のころ友氏の宗廟と云りあり

と云りて今と云代後土御門帝文明の源法印度賢中興と

云地佛十一面觀音の如く大所ありて

○三田の臺 多田備仲真列責の討の出城なりと云

不審満中乃關東征伐乃と云れあり



○魚籃の觀音

三田 津宗 三田山魚籃寺

あるる唐佛し音寺用ひ法養上人回向の所尊也此  
事あり長縁の香土ありしをとりてありしを  
佛形。面相唐女の如く太の法より藍魚の如く持し  
たり。天羽衣を拵立縁八九寸ありし貞享年中に  
ありし。の緒ありて常におす。今とありし金舎檀々  
之下の浦人漁りて一人乃  
員女籃を魚を入拵ありて漁又の肌をたけ肌を  
こす。のいに衣をあき漁又とす。其天ならに  
人これんをきき女の曰い経を一日おす。其  
とて観音經をあき。其のくちを  
て其人これんをきき。其をきき。其のくちを  
法華經を授く。其を授く。其のくちを  
一人これんをきき。其のくちを

その夜より大熱してかの女死馬郎や。かの女を  
を授く。其のくちを。其のくちを。其のくちを  
とて観音經をあき。其のくちを。其のくちを  
て其人これんをきき。其をきき。其のくちを  
法華經を授く。其を授く。其のくちを  
一人これんをきき。其のくちを

觀音冥應集 馬郎婦觀音ハ大唐ノ陝右ニ出現シ玉  
へリ魚籃觀音ハ本説ヲ見ズ疑ラリハ靈照女ノ  
像ノ籃ヲ持セルヲ 謬テ魚籃觀音ト号スルカ  
馬郎婦ト魚籃ハ一ナラシカ 下略

○樂師堂

伊四子

福昌寺

智化大師の元 性古の種念にありし。品川沙敏のありし。其の



○聖天宮 法興山多門寺 天台 上野末 三田

浅草今と龜山の間に大なる日月の日の心と云

○地藏堂 龍澤山中道寺 日 日末 日末

○護諸童子 醫王山妙巖寺 日 日末 日末

○三田川 甚るる底く新堀に入し

○元札辻 田所五丁目の三辻にひしき寺の元札場あり今い

牛所いあり ○伊東子 牛所のくしあるの敷石あり

○聖坂 二田所より甚く上坂を云

○綱塚 田所寺の境内あり古僧の云ひしき寺あり

○龜塚 日寺にあり古寺あり云々 龜井塚と云々

○月之洲 田所寺の境内あり古僧の云ひしき寺あり

○高輪 上ノ下あり 品川まわりの河原所より東に海し

○大佛 歸命山如來寺大日院 天台 上野末 三田

用の木食但唱乃自作し 寛永十二年の起立

石仁王一文六尺あり石の地蔵青なる毛彫の如く彫去り見

まじりて石の傷しに王地蔵と云々 但唱の作なり

此但唱の括列多田の産より有馬の某所のナリ云

○彌荷社 上ノ輪 別當大室院

○太子堂 旭曜山常照寺 天台 上野末 上ノ輪

十六歳の所紀より自作し △彌荷社 本堂のくま

△庚申堂 背面金剛民アツの心いし二字並びて立

○高山彌荷 下ノ輪 天台宗 安泰寺無事



○ 禪宗 佛閣

○ 太平山大中寺

下野富田の宿寺

窪三田

用山快菴和尚

曹洞宗関東僧祿三ヶ寺の内なり

○ 竜溪山源昌寺

青松末

畠 ○ 慈眼寺

八三山 天治末

三田

○ 松久寺

日

畠 ○ 高峰山南臺寺

真如末 日下

○ 梅岩山正山寺

日

冬下 ○ 天昌山清久寺

東泉末 日下

○ 虎嶽山常林寺

下込大隆寺末

日下

用山

虎嶽山の額心紙淨師の手

○ 竜谷山功運寺

三列竜門寺末

三田ヶ下

用山黙室天宮和尚 無天叟慶存和尚用基

現住透玄

定會

寺の格の独礼地

寺中 大梅院

水福院

下化寮

○ 瑞雲山竜翔寺 妙栄

三田

○ 泉谷山大泉寺

保善末

吉楡

水月觀音安置

○ 保安寺

三田

日下

○ 平田山正光院

日末

日末

○ 永壽山国昌寺

山門 山り末

日下

○ 雨室山菱梅院

保善末

日末

○ 廣法山秀福寺

大中末

日下

○ 鬻毛山廣岳院

永蔵末

日末

○ 桃源山松翁寺

吉祥末

三田

○ 南寺の西、窪番神といふあり

○ 宗清寺

山り末

日下

正保年中、はれより

○ 玉鳳寺

岩末

日下

○ 万松山泉岳寺

大中寺末

曹洞宗江戸三ヶ寺の内

三田

用山門菴宗関和尚

ひりひりた布の甚はあり正保年中はせよる。 此寺の浅野家の菩提所なり。 永長太石氏をばり先 四十七人義士乃石塔あり。 捷ありてみより人を合流南の 隅より頂の住僧の立ん下の碑あり。 件の音趣を記す。



○佛日山東禪寺 妙心末 濟家江戸三ヶ寺 三田  
 用山靈南和尚八日高依肥の久守永成し其御音に於て生じて  
 ひしひの衣布の基にあり実永年中に於て

○浄土宗

○嵩吹彌陀 三木山春林寺 三田  
三列 大樹寺末

○長園寺 三田  
三田

○室徳山大信寺 知恩末 三田  
三田

○金洞山法慶寺 日 日  
日

○三田山淨閑寺 日 日  
日

○寂照山実相寺 日 日  
日

○觀佛山長安寺 日 日  
日

○月香堂光覺院 日 日  
日

○正泉寺 日 日  
日

○池空山大増寺 日 日  
日

○元照山常光寺 増末 下高橋 日  
日

○深塚山永信寺 日 二平坂 日  
日

○永昌山竜原寺 日 三平 日  
日

○周光山濟海寺 知恩末 夕町 日  
日

○用山法養上人念茲和尚 夕町 日  
日

○沖より取高寺の施明を因あてりて入津よりけ  
 其より本房と依服下にありて佳景の地と高寺の系と

○法花宗

○長久寺 身築 隆音 ○妙莊山菩提寺 小湊末 三田

○榮松山長運寺 日 三田 ○光秀山蓮葉寺 日 日

○常祐山香蓮寺 中末 日 ○芳荷山長慶寺 本成末 三田

○長祐山美教寺 三平坂 ○廣布山実樂寺 小湊末 日



○一向宗

- 常教寺 西末 三亩 ○西蓮寺 東末 三亩
- 日照山空位寺 日 亭 ○神足寺 日 基下
- 正源寺 日 三亩 ○莊嚴寺 日 日下
- 德唯寺 日 日 泉 ○德玄寺 日 上三亩
- 院成寺 日 下三亩 ○心海寺 日 下三亩
- 宝位寺 日 上三亩 ○延立寺 西末 田町

○天台宗

- 滝高山玉泉寺 上野末 三亩 ○廣布山大樂寺 上野末 三亩
- 外張山幸福寺 日 日下 ○菰滝山西藏院 日 日下

○真言宗

○高野寺正輪番 紀列高野山宿寺

二本板

本堂弘法大師四十二歲時自修の所也

佛祖統記

弘法大師、佐伯氏田公男母阿刀氏小字貴物名空海

兼和二年三月廿一日入定高野山、歳六十二

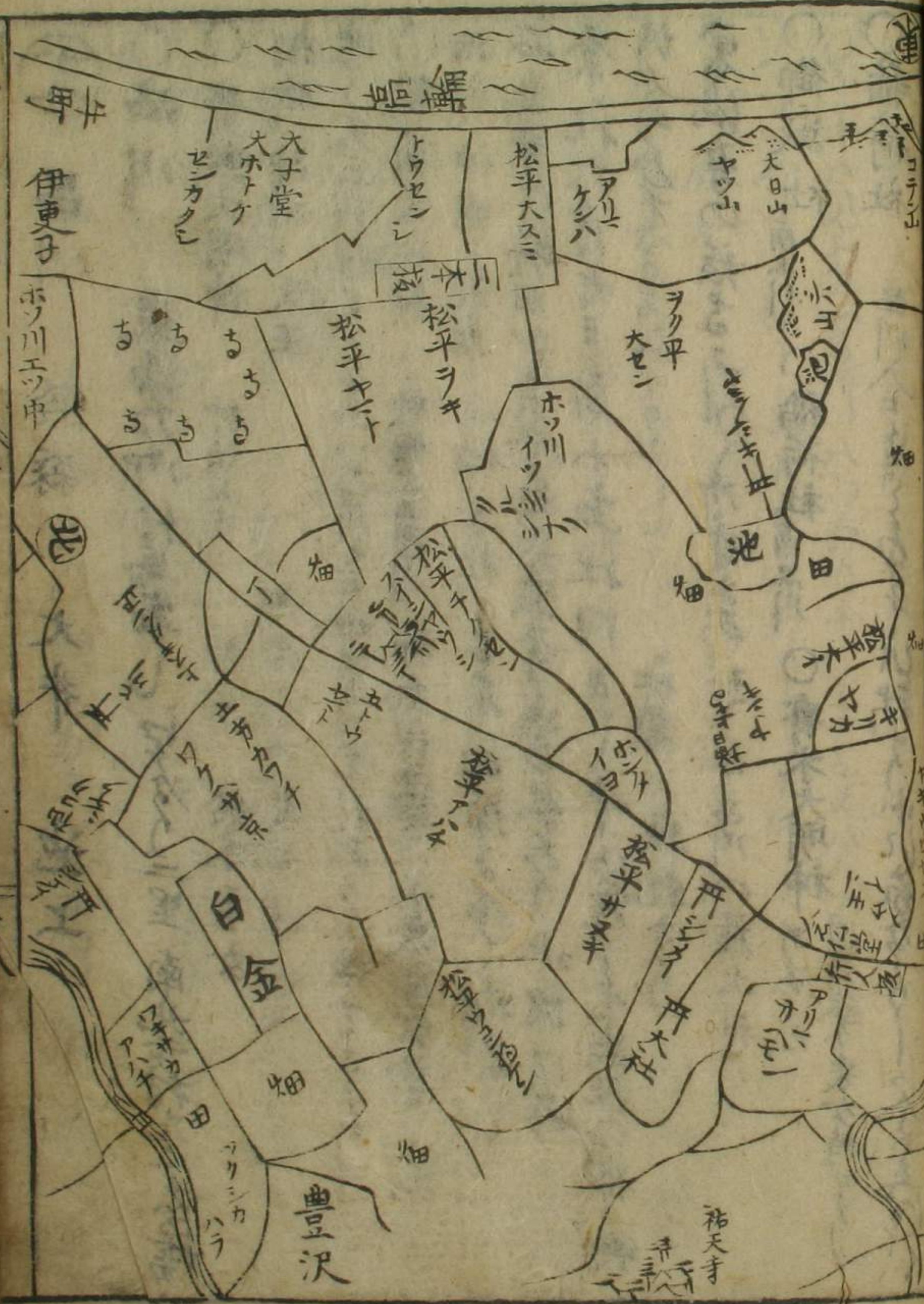
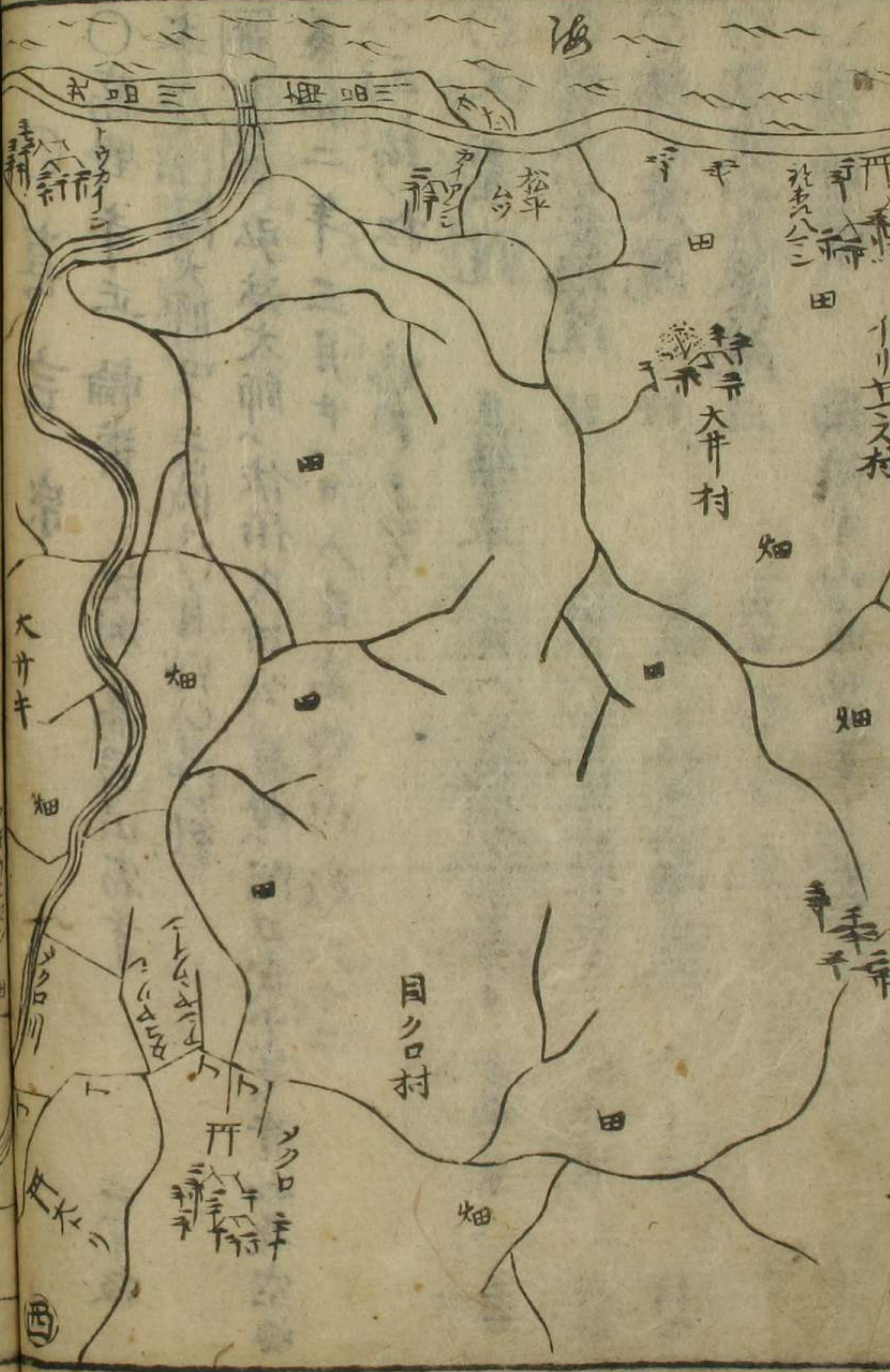
△三輪松 坊内あり

- 大聖院 真福末 三亩 ○竜淵山宝生寺 香福末 三亩
- 醫王山泉福院 日 泉 ○大元山長延寺 後持院末 日下
- 佛乘院 日 泉 ○伍大山明王院 六ヶヶ末 日下
- 朔光山真養院 日 泉
- 藥師堂 瑠璃光山遍照寺 芝

弘法大師用基本寺なり、傳教大師の作



品川目黒方角





十六

品川

鈴森

大井

池上

○品川 東海江中橋馬知し江今より三里南北寺村九千石の場

○貴船大明神 神領五石 神主 鈴木采女

相殿左神明右天王 南品川の産土神

○稲荷大明神 神領五石内 神主從五位下 小泉出雲守

相殿神明 天王 △神木松 古木、田原子枯て楸木也

石鳥井 堀田加賀守純正盛奇進の松あり水盥は乃

祭礼六月七日南小友社日し中の稲子と友社の神輿

りあひてまことつるし 社殿、独祀なり

東海寺の猿もつし所建之の社、小品川の産土神

○御嶽社南品川 ○稲荷社南品川 ○奇木大明神洲邊ノ川

○稻荷社 品川入口進きとんすは社、小川に家なりし今もまはる

○八ッ山 又大月山と云 多勢のり入口

ひしーいひ石の虫清八ッありし又八人のちん年一とあり

少子もととびー大月堂ありしと云

○御殿山 品川のうし子東海寺に隣る

大田道真居住の地とらひつる空を氷のうし御物の御殿場わ

りし少子少殿とらふとそをまふありし芝生原と云

○連理の枝 少殿ののゆあり友のふしと古藤子に記

そのころうらまるといふと今も

○撞鐘の松 少殿の山にあり増上寺の撞鐘を撞く

石のまじしにんたる松し

○光明石 品川よりありと古藤子に記その石不詳

○行合の橋 中の稲のうしし南小の神輿祭礼の時橋を

りあひあふし申へしと云

○震橋 御殿山乃ぬあり居本村あり橋



○震の松 赤川より池と云り下の石あり  
ひねた木多れとてとうごうとせし幹枝葉とてゆきし

○鮫頭明神 さらの海もあり 今磯水とす

ひし世傳へて子傳る鮫あがる漁師もこれを知りて  
きつそのおろしげき夜を宿たるともや浦へまかの  
殺のうやならんとてその殺の刃を折るまつりて鮫頭明神  
といふまじしすつてそのをいふの比うあまるとす

○朝比奈彦補 赤川に平安齋宮及下やとの不

朝比奈井 赤川にありと云ひらるる神ありとす

○太刀合の橋 ぬあま小川とす

朝比奈叔術きこの端をたると云  
○雲城乃松 松の松乃松あり松月とて本形面也

○萬松山東海寺 大徳寺流 寺領五百石 品川

用山宗彭澤菴和尚 賜号天應大現国師 寛永十五年起立

用山和尚の祖列出石の生三浦介平義明の末葉秋庭綱典の  
子なり師は大徳寺春屋国師と後一凍沼滴和尚の才子  
と傳正保二乙酉十二月十一日卒春秋七十三

△沃菴の御札 白羊の夏一圓相を畫く自一黙を下  
式人此沙乳を添へて

沃菴の沙乳は九子一天下東海及よかきとて

△用山廟所 大なるをひきしこのまじりて二かきて

銘文もかく只のふたり乞つ和尚の遺言なり

寛永の頃 沃菴 玉室 江戸 三橋ともいふありて

於その中に江戸和名の子細ありてなまきり沃菴は  
相列の形玉室和名真列相余へなる其法は産の  
江戸みまきりてとて一とてハみそ守沙乳は江戸

はとくめへとされたり 配下の春雨菴を以て高寺を







○福壽山清徳寺 建長寺末 寺元石

○瑞瑞山光嚴寺 右 法徳寺末 日宗

太田及権建立 礼像あり

○瑞雲山天竜寺 澄列大正寺末 日宗

○瑞雲山大竜寺 黄檗末 日宗

○補陀山海晏寺 三四功運寺末 日宗

△較頭觀音 大敵のかうの中より如き其佛と云

高寺ハ紅糸の名所なり本堂のみ一石の二面江葉

の大木ありて林のまゝ風景斜なり此の地世より

のち下谷正統と目黒明王院高寺跡よりと云あり

と云し浪のあつて夕海あり 鈴木東隣

門前東海名の瑞海して終の言少なるの地

○浄土宗 日宗

○阮成公形所寺 増上末 寺中 龍性院 正交院

高寺ハ初也形所寺と元ハ一寺のてしハ号も是九に

○法量山法蓮寺 日宗と浄土宗末

○法花宗 日

○鳳凰山妙国寺 岡山天目丈 寺元三石 妙海寺觸派

○鍾王公本覚寺 系如院末 ○惠日山妙蓮寺 妙海寺末

○宝光山本覚寺 本覚寺末 ○自覚山法徳寺 本覚寺

○一向宗 日

○心海寺 西末 ○正徳寺 西末

○天台宗 日

○熊野山常沙三昧寺 藪末 ○本覚寺 山王末

岡山慈光寺







○鈴森八幡宮 一名盤井神社

○列男神社 天正年中鎮座

△龍石 尚社あり古井二尺をうけし色青赤一他乃

遠遊紀行 此社舊有二石轉之則其聲如釜

吾妻紀行

○沖の多井 老丁沖中に尚社の多井あり

○荒蕪崎 龍の姿の残し古来の名あり

○大井 江戸より二里半 村に千六百石余の大村し

○大井の橋 日里西光寺の橋

○不企村 大井の邑

○長栄山本門寺 真奉寺

○長栄山本門寺 是し

○長谷山本門寺

○長谷山本門寺

○長谷山本門寺

○長谷山本門寺

○長谷山本門寺

○長谷山本門寺

○長谷山本門寺

○長谷山本門寺

○長谷山本門寺

○長谷山本門寺

○長谷山本門寺

○長谷山本門寺

○長谷山本門寺

○長谷山本門寺

○長谷山本門寺

○長谷山本門寺

○長谷山本門寺

○長谷山本門寺

○長谷山本門寺

○長谷山本門寺

○長谷山本門寺



△注法華經 祖師主筆の自注を一一く經の中に入れり

△才子檀那への遺物 自筆の帳

△身延山才子中 論番持 自筆の帳

△自筆の消息ありし 夫人下物の教條

△肉背の畫 夫在世の時ぬきたる畫ありし

△紫色の石 其體多々後 貞宗の太刀

△あめく 當山の什物あり

△祖師堂 長景の 本門寺 此の類の本河原光收の筆し

△當山の地 因東番匠の棟梁宇左衛門尉宗仲よりわたり住居

地をりえ祖上人の房別小湊の寺より一延き寺の出生の

所より房別より種々あり至るる岳川より名取ありて世の

宗仲より宗子入の宗仲より宗子入の宗仲より宗子入の宗仲より

地の景を尺の寸心我に遷化しき地なりと云ふ身延より

寺より寺の今の火坊をわたり高らるる古縁の世院あり

火坊の祖師入寂の地宗仲住下地し日澄上人の寺と云

南坊の 日照上人の寺 照葉院の 日朗上人の寺

△美藏坊の 日澄上人の寺と云 日朗の才子し

寺院

照葉院 美藏坊 九条院 妙泉院 中通院 本覚院

分善院 安立院 普賢院 妙法院 善徳院 大善坊

正教坊 妙遠坊 本藏坊 光明坊 蓮光坊 妙壽坊

本徳寺 妙喜寺 栄林寺 妙淨寺 本住寺 長照寺

妙光寺 正教寺 本光寺 本覺寺 長安寺 淨心寺

○千束池 日ありあり 長之所より寺ありし

○日蓮の腰掛松 ありあり 池よりあり 池よりあり 池よりあり

○池よりあり 池よりあり 池よりあり 池よりあり

○池よりあり 池よりあり 池よりあり 池よりあり

○池よりあり 池よりあり 池よりあり 池よりあり



丸 白銀 目黒 碑文谷 矢口

○氷川社 別當徳業寺 真言 真福寺末

白金の産土神なり 祭礼九月十七日

○鷲森神明宮 別當法音寺 真言 天台 山王城跡末

此を産土神とし神木板 祭礼五月廿八日

○文下稲荷 神主

○豊沢 上中下三村あり町人百姓入組の所

○土筆ヶ原 多々沢の産なり

○今里 白浪村の所なり白浪村に九八石あり

○六軒茶屋 びりーいけの茶屋の所なり今所茶屋の

○観音堂 真言 光雲寺 石所

○櫛木谷 中世に世に於ては斬罪場なり

○誕生八幡宮 永講山高福院 真言 山王末

○三宝塚 土蔵塚 乃子三軒茶屋の所なり

○直指屋敷 直指院と云あり寛文年中木食直指坊子神

佛を建之し直指院と云直指の所なり如西坊寛文六年十月廿日

は地あり入定に我永く疲癆を避へしと隆起の所なり

○雉子宮 斎 白雉山宝塔寺 天台 山王末 二リ

慶長の頃沙粒の時世より雉子宮なる社あり

○桐ヶ谷 二リ半

○蛇窪 未あり村の所なり

○蛇窪 未あり村の所なり

○蛇窪 未あり村の所なり

○蛇窪 未あり村の所なり

○蛇窪 未あり村の所なり

○蛇窪 未あり村の所なり

○蛇窪 未あり村の所なり

○蛇窪 未あり村の所なり



○禪宗 佛圖 白銀 目黒

○紫雲山瑞聖寺 黄葉派 白金

○開山木菴和尚 寛文手冲造立

○大光山童秀寺 妙心末 白金 ○法正妙雲院 白銀末 白金

○帝應山長沙寺 目玉 ○日出山威遠寺 瑞雲末 白銀末

○長昌山龍隱寺 生越の宿寺 寺腹百石 白金等之

○開山岳極和尚 曹洞宗 関東僧録三ヶ寺の元なり

○普明山西照寺 法華末 白金

○法花宗

○知光山立行寺 宗中後末 身延末 白金 寺中 無意院 在立行

○宝上山足林寺 小湊末 日 ○金保山本如寺 日末 日

○妙建山本立寺 池末 奔寺 ○藏滝山如來寺 日末 日

○天台宗 佛圖 目黒 白銀

○目黒不動 叡敵山竜泉寺 天台 上野末 目玉

○開山慈覺大師 奉り別慈覺の作

式人の云當山は佳音に日本天皇と云ふ事なるに神號もなく  
あり土民の神として荒人神といふに比おたり云々  
本國下野の山あり叡敵の山あり云々  
農氏移りて云々  
神傳と彫刻し神居たり云々  
不動の傳を以り開山と云ふ事あり云々  
此の山を以りてあそびあり云々  
凶徒等かきて燈火をたき云々  
その天のしる雲の市に云々  
洞を切して云々















